(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3688020号
(P3688020)
(45)発行日　平成17年8月24日(2005.8.24)　(24)登録日　平成17年6月17日(2005.6.17)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A61L　9/12　A61L　9/12

請求項の数 3　(全 7 頁)

(21)出願番号　特願平7-171019
(22)出願日　平成7年7月6日(1995.7.6)
(65)公開番号　特開平9-19490
(43)公開日　平成9年1月21日(1997.1.21)
審査請求日　平成13年3月12日(2001.3.12)

(73)特許権者　000001959
株式会社資生堂
東京都中央区銀座７丁目５番５号
(74)代理人　100068191
弁理士　清水　修
(72)発明者　袴田　征一
神奈川県横浜市港北区新羽町１０５０　株式会社資生堂第１リサーチセンター内

審査官　本間　友孝

最終頁に続く

(54)【発明の名称】芳香消臭容器

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
芳香剤を充填した充填容器に芳香の放出口を形成し、この放出口に臨ませて通気性を有する紙製の蓋体を、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される繊維と、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される素材繊維に銅化合物または亜鉛化合物を含浸させた消臭繊維とを配合して形成した事を特徴とする芳香消臭容器。
【請求項２】
充填容器は、保護容器内に収納したものである事を特徴とする請求項１の芳香消臭容器。
【請求項３】
充填容器は、保護容器内に収納せずに単独で使用するものである事を特徴とする請求項１の芳香消臭容器。
【発明の詳細な説明】
【０００１】
【産業上の利用分野】
本発明は、消臭機能と芳香機能とを兼ね揃えた芳香消臭容器に係るものである。
【０００２】
【従来の技術】
従来、室内、トイレ、車内等に設置する芳香消臭容器には、容器本体の内部に芳香剤や

消臭剤を配置したものが知られている。この従来の芳香消臭容器は、プラッスチック等の素材で容器本体を形成し、この容器本体の内部に、固形状、ゲル状、液状等の形態で設けた芳香剤や消臭剤を配置している。

【０００３】

また、この従来の芳香消臭容器は、容器本体の外面に通気用の開口部を形成し、この開口部から、芳香剤や消臭剤の揮発成分を空気中に放出していた。そして、空気中に発生しているアンモニア臭、トリメチルアミン臭等の悪臭を、消臭剤によって中和しながら、芳香剤の芳香を空気中に放出するものであった。

【０００４】

例えば、図３に示す従来例に於ては、容器本体(１)の底部に消臭剤(２)を配置し、この消臭剤の通気用の開口部(４)を容器本体(１)の底面に開口している。また、この従来例は、容器本体(１)の上端に蓋体(６)を配置し、この蓋体(６)の内面に芳香剤(３)を配置している。また、この芳香剤の通気用の開口部(５)を容器本体(１)の外周面に開口している。

【０００５】

また、他の従来例に於ては、容器本体(１)の内部に、図４に示す如く、消臭剤(２)および芳香剤(３)を配置している。また、この容器本体(１)の正面側に、消臭剤の通気用の開口部(４)や芳香剤の通気用の開口部(５)を開口している。また、この通気用の開口部(４)(５)は、模様等の意匠を施し、消臭剤(２)や芳香剤(３)の一部が見えないよう形成している。

【０００６】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の図３に示す従来例は、容器本体(１)の外周面に芳香剤のの通気用の開口部(５)を形成するため、この通気用の開口部(５)から消臭剤(２)が全て見え、見栄えが悪く、商品価値を低下するものであった。

【０００７】

また、上記の図４に示す従来例は、容器本体(１)の開口部(４)(５)に模様等の意匠を施すため、容器本体(１)を形成するプラッスチックの成形金型が複雑化し、この成形金型の加工作業に多くの手間が掛かり、コスト高となるものであった。

【０００８】

また、上記の図３、図４の従来例は、いずれも容器本体(１)の内部に消臭剤(２)と芳香剤(３)とを収納するものであるから、この消臭剤(２)と芳香剤(３)とを配置するスペースを大きく必要とし、容器本体(１)が大型化する欠点を有していた。また、芳香消臭容器は、芳香剤(３)および消臭剤(２)が消耗すると、廃棄処分するものであるが、従来方法は、プラスチックのみで形成しているため、不燃性のゴミの発生量が多いものであった。

【０００９】

本発明は上述の如き課題を解決しようとするものであって、芳香消臭容器は、消臭繊維を配合する通気性の紙製素材を用いて、蓋体を形成する事により、容器の成形作業に手間を掛けず、製品を廉価に形成する事を可能とする。また、芳香剤を外部から見えないように被覆して、商品価値を高めようとするものである。また、消臭剤を配置するためのスペースをなくし、芳香消臭容器の小型化を可能とするとともにデザイン上の制約を少なくする。また、不燃性のゴミの発生量を低減して、ゴミによる環境破壊を防止しようとするものである。

【００１０】

【課題を解決するための手段】

本発明は上述の如き課題を解決するため、芳香剤を充填した充填容器に芳香の放出口を形成し、この放出口に臨ませて通気性を有する紙製の蓋体を、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される繊維と、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される素材繊維に銅化合物または亜鉛化合物を含浸させた消臭繊維とを配合して形成して成るものである。

【００１１】
また、充填容器は、保護容器内に収納したものであっても良い。
【００１２】
また、充填容器は、保護容器内に収納せずに単独で使用するものであっても良い。
【００１３】
【作用】
上述の如く構成したものに於て、充填容器に充填した芳香剤は、その芳香を充填容器内に揮発する。また、この充填容器の放出口には、通気性を有する紙製の蓋体を配置している。そのため、芳香剤から揮発した芳香は、蓋体を通過し、外部に放出される。また、本願発明に於て、紙製とは、パルプ(バージンパルプ)だけでなく、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される繊維と、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される素材繊維を、配合したものも包含する概念で用いている。
【００１４】
また、蓋体は、形成素材に配合した消臭繊維によって、空気中のアンモニア臭、トリメチルアミン臭等の悪臭を中和し、悪臭を消臭する事が可能となる。この場合、蓋体は、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される素材繊維に銅化合物または亜鉛化合物を含浸させた消臭繊維と、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される繊維とを配合して形成すれば、通気性が良好となり、芳香剤の芳香を容易に通過させる事が可能となる。また、消臭繊維に含浸させた銅化合物、亜鉛化合物等によって、アンモニア臭、トリメチル臭等の悪臭を除去し、大きな消臭効果を得る事が可能となる。
【００１５】
このように、芳香消臭容器は、空気中の悪臭を消去しながら、芳香剤の芳香を放出するものであるから、芳香剤のみを形成する芳香剤容器の如く、悪臭と芳香とが混じりあって不快な臭いを発生させる事がなく、周囲の臭気環境を向上する事が可能となる。
【００１６】
また、芳香消臭容器は、蓋体の素材に消臭繊維を配合するものであるから、従来方法の如く、充填容器の内部に消臭剤の配置スペースを設ける必要がなく、充填容器の小型化を可能にするとともにデザイン上の制約を少なくする事が可能となる。また、蓋体は、通気性を有し、通気性の開口部を不要とするから、従来方法の如く、芳香剤が見える事によって見栄えが低下する事がなく、商品価値を高める事が可能となる。また、蓋体は、紙製の素材に消臭繊維を配合して形成するものであるから、使用後、廃棄する場合、不燃性のゴミの発生量が少なく、ゴミによる環境の破壊を防止する事が可能となる。
【００１７】
また、充填容器を、保護容器内に収納すれば、充填容器の転倒等を防止して、芳香剤の確実な保護を行う事が可能となる。
【００１８】
また、充填容器を、保護容器内に収納せずに単独で使用すれば、構成する部材が少なくなり、廉価に形成する事が可能となる。
【００１９】
【実施例】
以下本発明の一実施例を図面に於て説明すれば、(１０)は充填容器で、内部に芳香剤(１１)を充填している。この充填容器(１０)は、プラスチック等の樹脂で形成し、上面側に芳香剤(１１)の放出口(１２)を配置する。また、この放出口(１２)の外周方向には、フランジ(１３)を突出している。
【００２０】
また、この充填容器(１０)を収納する保護容器(１４)を設けている。この保護容器(１４)は、上端を外側に折返して折返し部(１５)とし、この折返し部(１５)で、充填容器(１

０)のフランジ(１３)の下面を支持している。また、保護容器(１４)内には、充填容器(１０)の底部を挿入可能としている。また、この保護容器(１４)は、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルク等を配合した紙で形成すれば、使用後の焼却が可能となり、不燃性のゴミの発生量を低減する事が可能となる。また、充填容器(１０)を、保護容器(１４)内に収納せずに単独で使用する事も可能である。この場合、保護容器(１４)は不要となるため、製品を廉価に形成する事が可能となる。

【００２１】

また、充填容器(１０)は、放出口(１２)に臨ませて通気性素材で形成した蓋体(１７)を配置している。この蓋体(１７)は、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクと消臭繊維(２１)とを配合して形成し、通気性能力を高めている。また、消臭繊維(２１)は、パルプ(バージンパルプ)、古紙パルプ、麻、ケナフ、コットン、レーヨン、ウール、シルクから選択される素材繊維に銅化合物または亜鉛化合物等を含浸して形成し、悪臭の中和作用を高めている。また、この蓋体(１７)は、和紙を掬うようにして、紙を立体的に形成するパルプモールド法によって成型する事が可能である。また、蓋体(１７)は、充填容器(１０)の放出口(１２)の上面に臨ませて配置する天板(１８)と、この天板(１８)の外周に配置する外周壁(２０)とから形成し、保護容器(１４)の外周を被覆可能とする。

【００２２】

上述の如く構成したものに於て、芳香消臭容器(２２)は、芳香剤(１１)を充填容器(１０)内で揮発させる。そして、この揮発した芳香は、通気性の蓋体(１７)を通過し、外部に放出される。

【００２３】

また、蓋体(１７)は、形成素材に配合した消臭繊維(２１)によって、空気中のアンモニア臭、トリメチルアミン臭等の悪臭を中和し、悪臭を消臭する事が可能となる。また、芳香消臭容器(２２)は、空気中の悪臭を消去しながら、芳香剤(１１)の芳香を放出するものであるから、芳香剤のみを形成した芳香剤容器の如く、悪臭と芳香とが混じりあって不快な臭いを発生させる事がなく、周囲の臭気環境を向上する事が可能となる。

【００２４】

このように、芳香消臭容器(２２)は、蓋体(１７)の素材に消臭繊維を配合しているため、従来方法の如く、充填容器(１０)の内部に消臭剤の配置スペースを設ける必要がなく、充填容器(１０)を小型化する事が可能となる。また、蓋体(１７)は、通気性を有し、充填容器(１０)の放出口(１２)の上面に臨ませて配置するものであるから、従来方法の如く、芳香剤(１１)が見える事によって見栄えが低下する事がなく、商品価値を高める事が可能となる。また、蓋体(１７)は、紙製の素材に消臭繊維(２１)を配合して形成するため、使用後の焼却が可能となり、不燃性のゴミの発生量を低減する事が可能となる。

【００２５】

また、上記の実施例に於ては、保護容器(１４)に折返し部(１５)を形成し、この折返し部(１５)で、充填容器(１０)のフランジ(１３)を支持するものである。しかし、他の実施例に於て、保護容器(１４)は、折返し部(１５)を形成せず、充填容器(１０)の底部を直接底面に載置可能としている。また、保護容器(１４)は、陶器、ガラス等の素材で形成すれば、紙製の素材で形成する場合に比較して、耐久性に優れたものとなる。そのため、芳香剤(１１)を消耗した充填容器(１０)を交換する場合、保護容器(１４)を継続して使用する事ができ、経済的な使用が可能となる。また、蓋体(１７)は、係合鍔(２３)を外周方向に突出し、この係合鍔(２３)を充填容器(１０)のフランジ(１３)の上面に載置している。このように形成すると、蓋体(１７)を小型化して形成する事が可能となるものである。

【００２６】

【発明の効果】

本発明は上述の如く構成したものであるから、芳香消臭容器は、蓋体の素材に消臭繊維を配合するものであるから、消臭剤の配置スペースが不要となり、充填容器の小型化を可

能とするとともにデザイン上の制約を少なくする事が可能となる。また、蓋体は、通気性を有し、通気性の開口部を不要とするから、従来方法の如く、芳香剤が見える事によって見栄えが低下する事がなく、商品価値を高める事が可能となる。また、蓋体は、紙製の素材に消臭繊維を配合して形成するため、使用後、廃棄する場合、不燃性のゴミの発生量が少なく、ゴミによる環境の破壊を防止する事が可能となるものである。

【図面の簡単な説明】

【図１】　充填容器の放出口および保護容器の外周を蓋体で被覆する実施例の断面図である。

【図２】　保護容器に収納した充填容器の放出口を蓋体で被覆する実施例の断面図である。

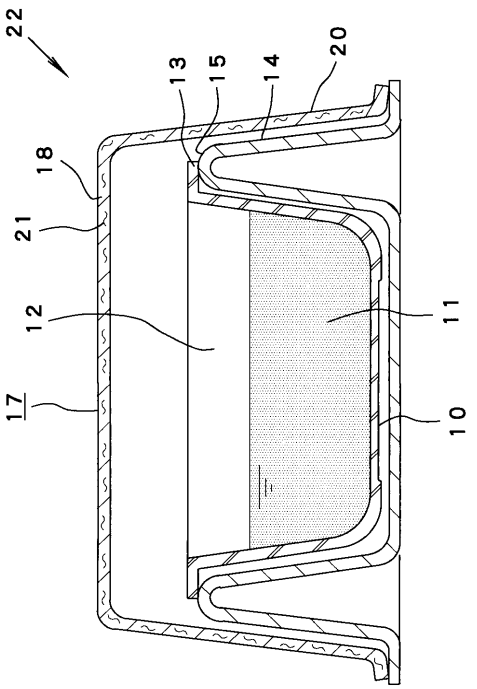
【図３】　容器本体に消臭剤を配置し、蓋体に芳香剤を配置した従来例の断面図である。

【図４】　容器本体に消臭剤および芳香剤を配置した従来例の断面図である。

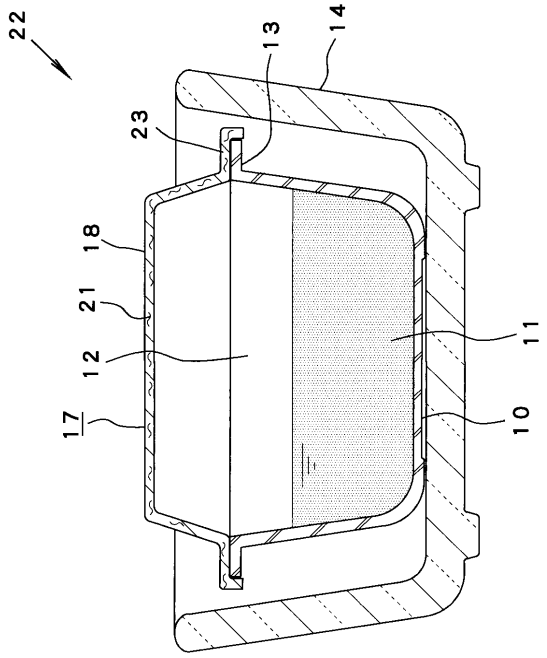
【符号の説明】

１０　充填容器
１１　芳香剤
１２　放出口
１４　保護容器
１７　蓋体
２１　消臭繊維

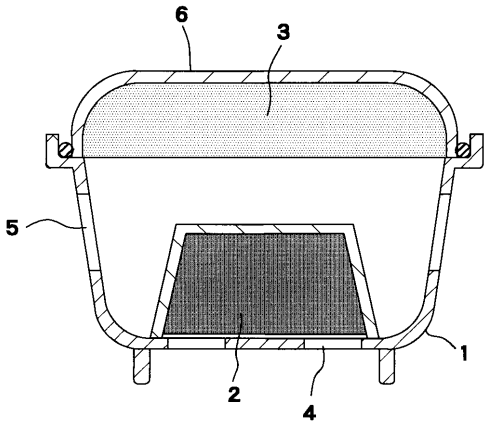
【図１】



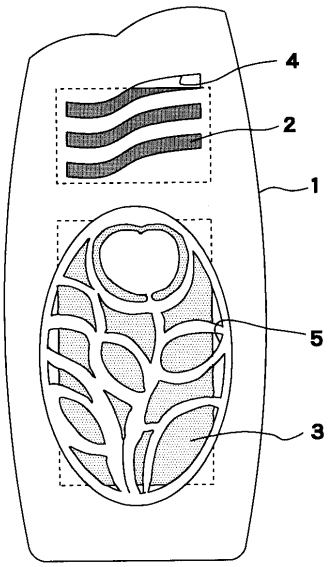
【図２】



【図３】



【図４】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭５６－００５５３１（ＪＰ，Ｕ）
実開昭５５－０００６８２（ＪＰ，Ｕ）
実開平０２－１２０３７９（ＪＰ，Ｕ）
特開平０５－１６８６８８（ＪＰ，Ａ）
特開昭６３－２７５７９９（ＪＰ，Ａ）
特開平０１－０９２４１４（ＪＰ，Ａ）
特開平０６－２２８８２３（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.[7]，ＤＢ名)
A61L 9/00-9/22